

# 売薬の意匠あれこれ

北多摩薬剤師会会長、立川市薬剤師会会長代行 平井 有(ひらい たもつ)

## その1 ■ 女神と天使

このシリーズでは、くすり文化発掘の視点から、現在では見られることがなくなったおらかな時代の売薬の意匠(デザイン)を紹介していきます。第1回は西洋文化の象徴とも言える「女神と天使」です。キリスト教の伝来とともに宗教画を通してこれらのモチーフも伝わり、江戸末期には葛飾北斎が祭屋台の天井画に天使を描いています。しかし、日本が欧米列強との対立、戦争を意識し始めた昭和の前期には姿を消してゆくこととなります。

明治3年(1870)、政府は、売薬の製造業者に処方、効能、用法、定価を提出させ審査を行い、有害な売薬を取り締まりました。同時に江戸時代に多く見られた神仏(神仏のお告げ)や夢想(処方内容が夢に現れた)、秘伝(一子相伝、先祖代々に渡り伝えられた)などの文言を冠することが禁じられました。その後、戦前前後を経てTVはもちろん、インターネットなど新しいメディアが普及した現在もOTC医薬品をはじめとすると全ての医薬品は、平成26年(2014)に施行された薬事法改め「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(略称:「医薬品医療機器等法」)によってさまざまな広告規制を受けています。第六十六条には、「何人も医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器又は再生医療等製品の名称、製造方法、効能、効果又は性能に関して、明示的であると暗示的であるとを問わず、虚偽又は誇大な記事を広告し、記述し、又は流布してはならない」とあります。



解熱鎮痛散「サンピラリン」(上)とディスプレイ看板(紙製)(左)



聖書の中の二節を連想させる「セキドメ専門セキキョウ」



参天製薬の前身、参天堂による便秘薬「健通丸」(下)と旗看板(布製)(左)



桐箱入りの婦人薬「月宮丸」は、きれいな多色刷り



「西川頭痛薬」の天使は羽衣をまとった天女にも見える



「神功丸」はエスエス製薬の創始者白井正助氏が製造した小児薬



ハワイのホノルルでも販売された小児用の胃腸薬「天来」